

あま かわ
天の川実行委員会（奈良県高取町）

安心して老いていける

地域社会の実現に向けて

天の川実行委員会

代表

のむら ゆきはる
野村 幸治



1. 高取町の概要

奈良県高取町は、大和平野の東南端に位置し、北は大和平野、南は高取山、東西に高取山に源を發し大和川の支流である高取川と吉備川が流れている、人口約7,200人の自然と歴史文化が豊かな街です。

近世以降、日本一の山城高取城に連なる城下町として栄え、明治以降は製薬・売薬業で繁栄していましたが、昭和40年頃から西洋薬に押され衰退していきました。

薬と高取町の関わりは遙か飛鳥時代にまでさかのぼります。日本書紀に推古天皇の時代に高取町で宮廷行事として薬草の採取や鹿の狩猟などを行う薬猟(くすりがり)が行われたとあります。明治になり土族の救済と衰退する城下町の復興策として、土族・町民・農民挙げて、古代よりゆかりのある製薬・売薬により「薬の高取町」として蘇り、明治から大正、昭和へと町が大きく発展していきました。



売薬を詰めた行李

2. 活動開始の背景・経緯

主産業の衰退に伴い若者は町を出て行き、昭和30年末人口が10,100人で世帯数2,045であったのが、平成27年3月末には人口7,204人、世帯数2,893、高齢化率35%と、人口減・高齢化の波が押し寄せてきています。若者の流出による高齢単独世帯化が進み、地域の活気が失われ、孤独死や災害・犯罪などに対する不安も高まり、高齢者の心身機能が低下していきました。また、地域商店の廃業が相次ぎ、高齢者が買い物難民化や、さらに利用者減に伴う公共交通機関の運行

本数減により高齢者の足が失われる危機に瀕しています。

さらに、町財政が前町長の無謀な公共投資により悪化し、平成16年度より5ヵ年連続の赤字を計上し、「第2の夕張市」の話題がマスコミに取り上げられるようになりました。

3. 天の川実行委員会の立上げ

このままでは町は消滅するとの危機感を持ちました。地域の商店はもはや個人の物ではなく社会インフラです。高齢化が進んでも地域で買い物ができる生活できる。まず商店を元気にするため人を呼ぼうと考えました。

町がこうなったのは役場や町長のせいではない。住民が町に何ができるかが問われている。住民が町を支えることなくして地域は成り立たない。まずは行政や既存の団体に頼らず、もちろん補助金も受けず、リタイヤした高齢者住民で活動することを宣言しました。

平成18年1月に1本道で日本一の山城高取城へ続く旧城下町の街道を天の川に見立て、高齢者住民が天の川の星になって輝こうと、5人の高齢者仲間任意団体「天の川実行委員会」を立ち上げました。



城下町の街並み

4. 目指すまちづくり

規約や役員といったものは作らず目指すべきものだけは明確にしました。「一定の活力を維持し、安心して老いていける地域社会の実現」で、そのためには、出来るだけ長く元気で暮らし続けるための生きがいづくりや、また心身が弱っても住み慣れたとこ

ろで暮らし続けられる環境整備であり、さらにお互いに支え合う人と人のつながりづくりを実現していくことです。

5. それまでのまちづくり活動

平成8年より、行政により城下町の街なみ整備事業として、道路の美装化及び空き家になっている伝統的建造物の町家を買取り改修して観光案内所を設置するとともに小公園の整備が行われました。

また、平成元年より行政が商工会に委託して年に一度11月23日に「たかとり城まつり」のイベントが行われていましたが、現在は観光協会が引き継いで実施されています。

11月23日以外、城跡へ登るハイカーが街並みを素通りして行く以外殆ど人が訪れなく、観光客数も年間9,000人足らずの状況が続いていました。



観光案内所「夢創館」

6. 「町家の雑めぐり」開催

仲間は5人、地域での知名度ゼロ、活動資金もゼロといった制約はあるが、技術や知識、経験そしてふるさとへの思いを持った高齢者世代と歴史の情緒ある城下町の街並みといった地域資源をイベント会場に設定し、お客様は、何事にも感動する感性をもって、ロコミ力があり、食事やお土産におカネを使い、行動力のあるシニア女性に狙いを絞りました。

この条件に合致した企画が「町家の雑めぐり」です。街道沿いの主に個人宅や僅かに残っている商店で飾るひな人形を楽しんでもらう1ヵ月間の

企画で、全国的なひな祭りイベントと差別化を図るため住民との交流が自然とできるよう、それぞれの家の「雛物語」を色紙に書いてひな人形の横に飾ることにしました。

「町の方とお話や、ふれ合いがとても楽しかったです。とてもステキなイベントだと思います。」といった観光客の方の感想に代表されるように住民とのふれ合い交流が好評を得ました。



町家の雛飾り

3年目にはメイン会場にピラミッド型15段の雛段を作り500体の雛を飾り、4年目からは街並みを花で彩り、5年目には、雛めぐりのマスコットキャラクター「ひなちゃん」を手作りで製作し、6年目には老人会が5mのジャンボ雛を2体作って広場に飾り今では自治会も加わり3カ所で飾られています。

また、メイン会場や駐車場案内などイベントの色々な運営に住民ボランティアの参加人数も平成26年には延べ6,375人となり、自治会、観光協会、商工会等さまざまな団体が、それぞれ独自の活動を活かした取組で役割分担を担ってもらうなど、住民挙げての取組に発展しています。

色々なもてなしが功を奏して雛を飾る家が最初36軒、今では100軒、観光客も最初8,151人が平成26年には44,321人まで増え、高取町で観光客が直接消費した額も6,800万円にまでなりました。

7. 「町家の案山子めぐり」開催

秋の企画もやろうと平成21年10月から、1ヵ月間「町家の案山子めぐり」を始めました。

高齢者が作った等身大のおばあちゃんやおじいちゃん、子どもの案山子を町家や商店に飾り観光客に楽しんでもらう企画です。

観光客から褒めてもらおうと高齢者は嬉しい。生きがいになり元気になる。観光と福祉は表裏一体だ。引っ込み思

案だった高齢者が積極的にイベントに参加するようになりました。

観光客の感想に「自然な町。街づくりに町の人達が自然に一生懸命されている様子に感動した。毎年新しい企画をプラスしての行事。生きがいもあり羨ましい限りです。」とそれが表れています。

8. 次々と新たな分野に挑戦

平成21年住民より寄付金500万円を集め、奈良県及び民間都市開発推進機構より500万円の拠出金を受け、空き家を改修してギャラリー等まちづくり拠点を整備し、毎月月替わりで手工芸作品展を開催しています。

平成22年、高齢者住民のまちづくりへの取組みに刺激を受けた商工会青年部が中心になって、旧JA跡地を買取って、食事処やイベント会場等の機能を持つ、まちづくり拠点を整備し観光客と住民との交流の場として活用されています。

また平成23年には高取町一区自治会と当会が協働して「土佐街道周辺景観住民協定」を締結し、住民に旧城下町の景観保全の重要性を周知していて、住民の自主的な町家改修が19件に及んでいます。



ギネス世界一ビールの空き缶高取城

平成24年には高取町一区自治会と当会が協働で、ビールの空き缶35,679個で高取城天守閣オブジェを作り、ギネス世界記録に認定されました。

平成24年～25年にかけて奈良女子大学の教授等により「この町に住み続けるための住民調査」「まちづくり活動に関する調査」を実施していただき、当会の活動が地域住民に「地域の問題に関心を持ち、解決していこうと考える」きっかけになっていることが明らかになりました。

平成25年には地域の活性化に取組むall高取町をPRするため「恋するフォーチュンクッキー 高取町Version」の映像を役場と当会の協働で、製作しYouTubeを使って全国に紹介しました。

平成26年ピーターパンの映画を、テレビコマーシャルを制作している会社の協力を得て、小学校の児童やお母さん、高校生そして高齢者などが出演して製作しYouTubeにアップしました。

平成27年2月には、「町家の雛物語」を出版し、広く一般の方にも読んでもらえるよう書店で販売しています。

9. これまでの成果

①商店の廃業に歯止めが掛り、新規に開店する商店も6店舗出てきた。

②観光交流客の大幅な増加

- ・平成17年度年間9,600人

- ・平成26年度年間62,000人

③住民の地域に対する理解や関心、愛着が高まった。

- ・大学の教授等による調査から

④町財政が健全化

- ・平成21年年度より黒字化

当初高齢者仲間5人で動き出したまちづくりは、町の住民や商店そして色々な高齢者グループや団体の賛同を得て大きな輪となり、更に商工会青年部や小中学生の父兄といった次代の町を担う年代へと広がりつつあり、町内に根の張ったまちづくり活動が進んでいます。

10. 今後の展望

地方版総合戦略の策定に向けて、当会の代表が町の審議会のメンバーになっており、下記の事項を意見具申しています。

骨子は、街並みまるごとCCRC（自助・互助・共助のまち高取町）の創出です。

①高齢者の積極的な社会参加活動の促進②日本一の山城高取城と城下街並みを活かし観光交流客の増大を図る③東京圏等のアクティブシニアの移住受入れの促進等で、採用されればソフトの分野を担っていきます。

来年町家の雛めぐりは10回目を迎えます。これを記念して「雛物語」の劇映画の製作を計画しています。



天の川実行委員会勢揃い